

## その他災害編②「災害の備えと避難行動」

### ○風水害・土砂災害に備える

近年、河川整備が進み、河川流域のはん濫や浸水被害は減少傾向にあります。しかし、集中豪雨や強風による倒木が交通や電気等のライフラインに大きな被害をもたらすことがありますので注意しましょう。

#### ！天気予報や気象情報に注意

台風や豪雨はある程度、進路や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。

#### ！指定緊急避難場所・指定避難所などを確認する

洪水・土砂災害ハザードマップ(P17～P24参照)を確認し、あなたの近くの避難場所を確認しておきましょう。

※水害の状況により避難場所が変更となる場合があります。

#### ！外出をひかえる

注意報・警報が発表されたときは、気象状況に十分注意し、無理な外出はしないようにしましょう。

#### ！安全な避難順路の確認

指定緊急避難場所・指定避難所までの実際の道順を確認しましょう。目印になるものを、おぼえておくとう便利です。

#### ！防災ひとくちメモ③

##### 正しい情報を入手しましょう

テレビやラジオで伝えられる気象庁の気象情報に十分注意して、避難行動の判断に生かしましょう。SNSやインターネット上にはさまざまな情報があふれていますが、過去にはデマ情報が流れたこともあるため注意しましょう。

### ○避難行動への心得

#### 1 2人以上で避難

市役所、消防署、警察署からの避難の呼びかけに注意し、できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子どもからは目を離さないようにしましょう。

#### 2 助け合って避難を

子どもや高齢者、病気の人は避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

#### 3 安全な避難

浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、狭い道や塀のそば、川の近くなどの危険が潜んでいる箇所をできる限り避けましょう。

#### 4 避難は徒歩で

車での避難は、緊急車両通行の妨げや交通渋滞を招くほか、浸水により動けなくなるおそれもあります。特別な事情がない限り、徒歩で避難しましょう。

#### 5 避難に遅れたら…

万が一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物のできるだけ高いところに逃げましょう。

### 洪水などから身を守る避難行動

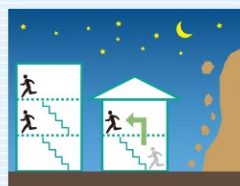
自宅や自分のいる場所が、浸水想定区域内で想定浸水深が最上階の床の高さを上回る場合や、家屋倒壊等氾濫想定区域内にある場合は、浸水前の早い段階で安全な場所へ避難しましょう。

万が一、逃げ遅れて浸水後の避難となる場合や、安全な場所まで移動することが危険な場合は、屋内の高いところや屋上へ避難する垂直避難(屋内安全確保)をしましょう。

### 土砂災害などから身を守る避難行動

自分や自分のいる場所が、土砂災害(特別)警戒区域内にある場合、安全な場所へ立ち退き避難をしましょう。

万が一、安全な場所への避難が難しい場合は、崖と反対側のなるべく高い階の部屋などへの垂直避難(屋内安全確保)をしましょう。



避難情報や防災情報を確認し、二次災害を考慮に入れ、足元に注意して避難しましょう。

### ○避難のあり方を考える

避難所が過密状態にならないために、「避難所」への避難以外に、「親戚・知人宅」、「ホテルなどの宿泊施設」「車両避難(車中泊※)」、「在宅避難」などさまざまな避難先に、分散して避難することが大切です。

※車中泊は一酸化炭素中毒やエコノミークラス症候群などの健康被害に十分留意することが必要です。

#### 危険性が高い場所にいる場合

#### 避難① 立ち退き避難

##### 指定緊急避難場所・避難所

危険なときは迷わずに指定の緊急避難場所や開設されている避難所へ避難しましょう。



##### 分散避難

安全な場所にある親戚・知人宅や宿泊施設などへ避難しましょう。



#### 危険性が低い場所にいる場合

#### 避難② 屋内安全確保

##### 在宅避難

避難は立ち退き避難が基本ですが、自宅が避難の及ばない安全な場合のみ可能になります。(P33参照)



#### ！防災ひとくちメモ④

##### エコノミークラス症候群 ってなんだろう？

長時間足を動かさないことで、足の静脈に血栓(血の塊)ができて、血栓の一部が肺の血管を塞いでしまう病気です。

##### 予防対策

- 座ったままでも、足の指やつま先を動かすなどの運動をしましょう。
- こまめに水分をとりましょう。
- ゆったりとした服装で過ごしましょう。

### ○特別警報について

#### 【特別警報が発表されたら】

「特別警報」とは、「重大な災害への危険性が著しく高まっているとき」など、気象警報より危険な場合に気象庁が発表するもので、千歳市に発表される特別警報の種類には、「大雨、大雪、暴風、暴風雪」の4種類があります。

#### 【北海道で初めて「大雨特別警報」】

平成26年9月には、大雨により北海道で初めて「大雨特別警報」が発表され、千歳市は大和、桂木、蘭越、新星地区及び支笏湖地区に対し避難勧告を発令しました。この大雨により、支笏湖地区を中心に土砂崩れや道路の崩落など大きな被害が発生しました。



支笏湖地区の被害の様子

#### 大雨特別警報

台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合。

#### 大雪特別警報

数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。

#### 暴風特別警報

数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により、暴風が吹くと予想される場合。

#### 暴風雪特別警報

数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合。